



# 会報

令和7年  
会報第1号

発行・編集

鹿児島県教頭会

〒892-0836

鹿児島市錦江町2-16  
鹿児島県公立小・中学校  
教頭会館県教頭会事務局

Tel 099-226-8268

Fax 099-822-5580

## 会長就任のあいさつ



鹿児島市立武小学校

五反田 新一

五月九日に開催されました県公立小・中学校教頭会委員会におきまして御承認をいただき、昨年度に引き続き会長に就任することになりました。

県教頭会の会長という大役を二年引き受けさせていただくことに責任の重さと今年度の活動への意欲を抱いているところです。県下の教頭先生方に御理解と御協力をいただきながら、微力ではありますが精一杯取り組みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

本年度の県公立小・中学校教頭会の会員数は、六七九名、うち新任の教頭が九七名です。昨年度よりやや

会員数は減少しましたが、この全会員の皆様が、教頭の活動を通じて連携を図り、協力することができれば幸いです。

さて、少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等により不確実性は高まり、子供たちを取り巻くこれからの社会状況はますます予測困難となってきました。また、学校では少子化による統廃合、価値観の多様性や生徒指導の複雑

化、教職員の長時間勤務など教育現場を取り巻く問題は山積している現状です。次代を担う子供たちに予測困難な時代を生き抜くために必要な力を身に付けさせるためには、学校・家庭・地域で連携、協働してよりよい学校教育を展開していくことが必要となります。

今年度の研究は、第十三期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の三年目、まとめの研究となります。

「未来を切り拓く力」とは、よりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていくために、自らの個性を発揮し、自信をもって自らの未来を、自らの手で切り拓く力であり、様々な困難や課題に自ら考え、判断し、積極的に対応する力と考えています。「魅力ある学校づくり」については、子供たちが笑顔で学校に通い、安心して教育を受けられることはもちろん、保護者や地域住民の方に信頼され魅力を感じていただける学校、そして、そこで働く全ての職員にとっても「魅力ある学校」となるように努めていくことが大切です。私たちが教頭は、日々の業務や研究

に励むとともに、職務の専門性を高め、幅広い教育課題に対応していく資質や能力を身に付けていかなければなりません。そこで、本会では次のことに重点を置いて活動を進めてまいります。

第一に、第五十九回研究大会が多くの会員の皆様にとって充実したものになるように、提言者や指導助言者、役員として御協力いただく先生方等のお力を借りながら運営してまいります。一日開催となって三年目を迎えました。が、運営面や日程等についての課題もありましたので、改善を図りながら準備を進めてまいります。

次に、教頭の処遇改善に向けた調査活動に努めるとともに、県教育委員会や県連合校長協会、全国公立学校教頭会などの各種団体とも連携を強化し、要請活動を継続してまいります。特に今年度は、国会議員への要請活動にも積極的に参加し、教頭の職務改善及び学校教育の充実発展に向けて一層努力をしてまいります。

三つめに、県教頭会のホームページを広く周知し、九州大会や全国大会、各種研修会における最新情報を発信してまいります。

四つめに、今年度の研究大会の反省をもとに、次年度の研究の方向性を定めていくことです。来年度から第十四期全国研究主題についての研究が始まります。各地区の委員、研修部長、提言者の皆様と連携を深めながら進めてまいります。

最後になりましたが、様々な課題や大きな変化のある教育現場ではありますが、この状況を乗り越えていくためには、教頭先生方のこれまでの経験と建設的な御意見が必要で、県公立小・中学校教頭会は、今後も広く会員の皆様の声を聞かせていただき、それを活かしながら相互の連携を深め、充実した活動を進めていきたいと思っております。

令和七年度の各学校の教育活動が充実し、本県教頭会が順調に前進することを祈念しあいさつとさせていただきます。

## 私の勧める一冊



### 『個別最適な学びと協働的な学び』

著者 那須 正裕  
発行所 東洋館出版社

#### 奄美市立奄美小学校

西村 一伸

山形県天童市立天童中部小学校を舞台に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した実践が記されている本である。

中央教育審議会が二〇二一年に「令和の日本型学校教育」の構築を打ち出して四年あまりとなる。社会的な要請の流れも受け、教育界は、学びの転換を目指すという難しい課題に直面している。近年、学びの転換の大きな目玉として自由進度学習がクローズアップされている。本書は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体のものとして捉え、「子供たちのタイミングで学ぶ学習への転換」がポイントであると述べている。これを実現した例として、

### 『余白思考』

著者 山崎晴太郎  
発行所 日経BP

#### 曾於市立財部中学校

加藤 恵子

私が勧める一冊の本は、山崎晴太郎著「余白思考」という本です。

ある同僚から、「以前一緒に働いていた教頭先生は、就業時間が終わるといつも読書をしていた。」というエピソードを聞きました。私は、そんな素敵な余白は教頭職をしなから生み出したことは恥ずかしながらありません。しかし、日々の「余白」の無い仕事の実態に疲れ切っている自分自身も自覚しています。この本のタイトルに「私の生活にどう余白を生み出せばよいのかのヒントがあるのでは？」と思ひ、手に取りました。

本を読んで一番心に残ったのは、「余白とは、ただの空白ではなく、可能性のある空間だ」という考え方です。著者は、昔の日本家屋にあった「縁側」や「土間」を例に挙げ、余白の本質を説明しています。縁側は、家の中でも外でもな

私の余白の無い日々にな少しですが、素敵な余白を生み出した気がします。

### 新任教頭雑感

笑顔を忘れずに・・・

#### 薩摩川内市立川内北中学校

原 武利

川内北中学校に教頭として赴任し、早いもので四か月が過ぎ、一学期が終了した。薩摩川内市の中心に位置し、生徒数七六九名、二八学級という大規模校である。教頭としての職務に大きな不安と緊張があったが、校長先生をはじめ先輩教頭先生の御指導、先生方のサポートに支えられ、何とか一学期を終えることができた。

一学期を振り返ると、大規模校ならではの課題や調整すべき事例も多く、教職員や生徒とのコミュニケーションや様々な保護者対応、

さらには地域との連携も一層重要であると感じる機会が多くあった。

また、何かをする際に、教職員の意見を調整し、全体の方向性を一致させていくのが困難であることもあった。これまでの実態やその時の状況を把握し、新たな視点を持って、解決に向けての方策を探ってきたつもりではある。

最近、ほんの少しではあるが、自分の中にもゆとりが生まれ、様々な行事や職務を楽しむ余裕も少し出てきた。二年目、三年目となるにつれ、更にその楽しむ余裕は増していくのではないだろうか、と自分に言い聞かせ、自宅でのゆっくりとした時間や休日の気分転換を楽しんでいる。

二学期に向けて、引き続き教員間の連携を深め、生徒一人一人に寄り添った支援をしていけるよう、学級経営や教科経営、生徒指導の精度を上げ、学校が全ての生徒にとって安心できる場所であり、成長できる環境となるよう力を注いでいきたい。そのためにも、笑顔を大切に、魅力ある学校について問い続けることのできる教頭でありたい。

## 随想



### 終戦80年にあたったの思い

#### 霧島市立国分南小学校

基永 強

霧島市教頭会の役員として、県の会報に執筆させていただく機会を得た。有り難い学びの機会としたい。

今年は戦後八十年である。各種メディアもこぞって取り上げたが、若い頃に目にした忘れられない一文がある。それは「目が潰れるほど本を読んでもたい。」である。角川グループの創始者である若き日の角川源義は神田神保町の古書店で一冊の本を手にした。その本のページの端に殴り書きで書かれていた。それを見た若き日の角川は、勤務していた中学教師の職を辞し書籍出版を決意し現代に至る。その言葉は、太平洋戦争末期に学徒出陣で徴兵された一人の大学生の悲痛な叫び

であつたと記憶している。

我々は戦後八十年を経て、平和を享受して生きている。

そして、教壇に立ち平和の尊さを伝えている。両親は他界したが戦前・戦中を故郷の喜界島で過ごした。終戦間近の頃、悲惨な空襲や死を目前に控えた若き特攻兵との触れあいの記憶も聞かせてくれた。

この八十年の契機に、多くの世代が戦争の記憶を風化させず、未来へ継承する取組を進めている。非常に難しく、気が遠くなるような歩みかも知れない。だからこそ、我々は「学校教育が持つ責任と重要性」を改めて見つめ直し、未来へ継承しなければならぬ。

六年生国語教材の一節のように「一人一人の心に平和の砦を築かねばならない。」この夏の思いである。

## 自由投稿



### 新任教頭としての第一歩

#### 西之表市立安納小学校

野海 功匡

令和七年度、新任教頭として、西之表市立安納小学校に赴任することとなった。

管理職、単身赴任、離島の生活と、この年でも初めてだらけのことで、高揚感と不安感が混じった何とも言えない精神状態だったことを覚えている。

安納小学校は全児童十三名の、山や海がすぐそばにある自然豊かな学校だ。留學生が半数を占めているが、児童同士の仲はとても良い。毎朝、元気よく子どもたちがみんなあいさつしてくれているので、元気をもらっている。また、気軽に話しかけてくれたり、授業では一生懸命考え、できた・分かった時の笑顔を見せてくれたりと、私の心を癒やしてくれている。

保護者の方や地域の方もとても明るく、元気な方が多く、気軽に接してくださるのも、とても嬉しいことだ。学校行事に積極的に参加してくださり、校区全体で子どもたちを大切にしていることが分かるそんなすばらしい校区だ。

私も、教頭として子どもたちにできることを惜しみなく取り組んでいきたいと思った。それと同時に、子どもたちを大切にしてくださる保護者や安納校区にも何かできることがあれば積極的に参加していきたい。

また、管理職としての自覚を持ち、日々研鑽しながら、より良い学校運営を校長先生と共に取り組んでいきたい。